



成人向け同人誌  
ADULTS ONLY



「へッ、女がストリートファイターなんて笑わせる」  
男は既に動けないさくらの腹をまた踏みつけた。

「うーっ！も、もう許してえ……ごめんなさい……  
喧嘩を売って……ごめんなさい！もうしません！」

「もうしません、じゃねえよクソガキが！男をなめやがって！  
また踏みつけ、翅を抜かれたハエのように四肢をバタバタと  
動かす少女の姿を堪能する。まだ子供同然だが、たしかに  
女……牝だ。」

「へッ、負けたヤツは何されても文句言えねえよな……」  
男はさくらの赤いブルマを指に引る掛け、ゆっくり引る張り下ろす。

「うぎやあああ！嫌ああ！痛い！痛いよお……」  
肉が裂ける音が少女の脳内に響く。  
男のモリが薄い膜を破り、容赦なく膣を襲う。

「あが！嫌あ！やめ！てえ！痛い！助けて……」  
「パパ！ママあ……」  
破瓜の痛みと強姦の屈辱に犯され、  
一人のファイターが、  
幼い少女の様に泣き叫び続けた。





「また負けた...そしてまた、  
陵辱を受ける...リベンジのつもりが  
見事返り討ちになり、もう十度目。」

「ほーら、さくらちゃん、全部飲むんだぞお」  
「んぶーんん！んくっ、んく、こくっ！」

「ふあああ、あああ、あはああ」  
二本のペニスに貫かれ、弱い声を  
上げる。もう何度も、何度も絶頂  
してしまっている...  
男たちに負ける度、またすこし  
男の味を覚えてしまう。

「今日もまた負けた。そしてまた  
犯された。」

でもいつの間にか、  
膣や口、肛門に突き刺さる  
肉の竿が吐き出す精液が  
心地よく感じるように  
なっていた。

「何ださくらちゃん、まじった  
負けに来たの？」  
何時からか、挑戦に望む少女の  
拳には覇気が無くなり、自ら相手の  
攻撃に飛び込むようになっていた。

大きく膨らんだ彼女の  
腹には男たちの誰かの  
子が育っている。

だから今は戦わず、  
挑戦して、すぐに降伏する。  
そして待ちきれないように  
股を開き、敗者への制裁を  
受ける。

「んぶらうんひいひいふ  
イウウウウ」

やったあ！催眠薬の入ったビールを飲んだぞ！これで理穂ちゃんはおんなは俺のモノだ！

「理穂ちゃんはいつも俺を見ると欲情するね」

「そうなのーおじさまを見ると、すぐイヤらしい気分になっちゃうのよ」

「チンポとが舐めたくて我慢できないでしょ？」

「できないーいゝ無理よ、今すぐ欲しいー」

「理穂ちゃんはチンカスが大好物だもんなー」

「好きいいゝ特にコレゝおじさまの臭いカスがイイのゝ」

「んむゝあむゝおいひいゝはだゝ」

「ミカンよりずつと美味しいよ」



「もじ腰を振りなさい」

「んふうは、はひいおじさまあ  
ああこれこれ好きいいおじさまの遅しいチンポ」

「そういうえは最近若いやつとよく話してるそうじゃないか」

「え？は、はいいつも指名してくれてるのお」

「そいつはもうヤツたのか？」

「してないよおしないよお」

「あでも、おじさまがしてか言ったらする」

「ふう、よかったよ、理穂ちゃん」

「えへええありがとおおじさまあ  
おじさまも、しゅくく…よかったよお」

「今度その若いやつが来たら、俺とのセックスがどれだけ好きなのか、彼に教えなさい」

「は、はひい教えましゅ  
いっぱいっぱい話して、おじさまがしゅこいのを  
分かってもらいましゅ」



能力者に憧れ、自分がレベル0だという事を呪い、左天涙子は噂の「レベルアップ」を求めた。ソレに関する情報は高値で取引されている事を知った涙子は、すぐさま資金集めに身を投じた。

「あうゝあゝええ？ 膈内で射精させたら、2倍出すの？」

「でも、中はヨワイよ……  
赤ちゃん出来たら……え？  
4倍？……うん……分かった」

「ぶおおゝおほおゝ」

「中にゝ中にだされてるゝ」

しかし涙子の商売は男たちの間ですぐ広まり、乱暴な客、金を払わない客、無理矢理膈内に射精する客、仲間を呼んで輪姦す客……などが増え、金の流れも消えていった。

今や涙子はタダハメしていいと評判な女として、学園都市の男の間では有名な存在になりつつある。

「レベルアップ」をてに入れるのは、まだまだ先の話になるでしょう。

存在意義...

女のレズは  
いったい何んだって...

おまけ...



こんにちは、Da Hootchの新堂エルです。  
3回目、感謝の無料配布おまけ本です。  
こんかいも締め切りギリギリ。もうポリシーになりつつあります。  
この本のネタがまったく無く、適当に見ているアニメや昔から  
好きなキャラをぼちぼち描いていましたら…マインの本よりこっちの  
方が今どきじゃね？って疑問が脳内に浮かび上がりました。  
きっと気のせい。  
とにかくわざわざこのほんを取っていただきありがとうございます。ありがとう。  
大事な事です。

DA HOOTCH  
新堂エル  
dahootch@gmail.com  
<http://elehome.comicgenesis.com>

12/31/2009  
楽(3)

印刷  
サンライズパブリケーション

